

令和 6 年 5 月 16 日

サーキュラーエコノミーの実現に向けた取組 「Rethink Design プロジェクト」がスタート！ ～事例集『Rethink Designers Report』公表～

サーキュラーエコノミーの実現に向けては、動静脈産業の連携^{※1}が重要となりますが、近畿経済産業局では令和 5 年度に先行事例 15 プロジェクトに対し調査を実施し、取組が継続し、今後加速化させていくためのポイントを「Rethink Design^{※2}」と整理するとともに、事例集としてまとめました。いずれも Rethink Design による動静脈連携の好事例となっていますので、ご覧ください。

令和 6 年度は、調査で得られた知見の浸透と実践企業の拡大を目指すべく、「Rethink Design」に基づく思考変容と行動変容を促し、循環性の高いビジネスモデルに資する新たなプロジェクトの創出に取り組みます。

本調査ならびにご関心ある事例に関して取材のご相談等ございましたら、お気軽に担当者までご連絡ください。

※1 動静脈連携…経済活動(モノの流れ)を血液循環になぞらえたもので、生産から小売に至る「動脈産業」と消費後のリサイクル等を担う「静脈産業」の連携を指す。

※2 Rethink Design…廃棄物を資源として捉えなおし(Rethink)、組織の垣根を超えてライフサイクル全体で資源循環と付加価値の最大化を目指す(Design)。動静脈連携を推進する1つの手法

1. 背景・概要

近年、廃棄物問題や気候変動問題等の環境制約、世界的な資源需要と地政学的な調達リスクの高まり等の資源制約に加え、成長機会の観点から、サーキュラーエコノミー(以下、CE)への移行が喫緊の課題となっています。

CE の実現に向けては、動脈産業がビジネスモデルの転換をする上で静脈産業との連携が重要となる一方で、動静脈連携に向けた思考変容と行動変容を促す具体的なアプローチや知見が十分に整理されていない状況です。

近畿経済産業局では令和 5 年度、動静脈連携の先行プロジェクトに着目し、目指す方向性やプロジェクトを通じて生まれた新たな価値について、26 者、15 プロジェクトに対し調査・分析を行い、調査で得た知見や事例をとりまとめました。

2. 調査結果のポイント

共通する特徴として、廃棄物を資源として捉えなおし(=Rethink)、組織の垣根を超えて、ライフサイクル全体でモノを単純に廃棄するのではなく、資源として循環さ

せるとともに、ブランド化やストーリー性の付与等により付加価値を最大化させている(=Design)ことが窺えました。このような示唆を「Rethink Design」と銘打ち、動静脈連携の鍵になると整理しました。

また、プロジェクトを継続していくことで、環境に貢献するだけでなく、企業の新たなブランディングや事業展開、雇用、地域でのコミュニティ醸成につながっている示唆もありました。

3. 今後のプロジェクト展開

CE の取組に挑戦する事業者等に対し、「Rethink Design」に基づく思考変容と行動変容を促し、循環性の高いビジネスモデルに資する動静脈連携プロジェクトの創出に取り組めます。

令和 6 年度は、CE の取組への認知・関心を高めるために、調査で得られた知見をセミナー等で広く浸透させます。また、CE の取組を実践する事業者や自治体等に対し、お互いの学び・出会いを意識した交流会、プロジェクト訪問ツアー、更なる取組に向けたマッチング支援を実施するなど、CE の取組段階に応じたきめ細やかな支援を実施します。

<参考> 資源循環経済政策を巡る政府の動き

経済産業省では、CE への移行に向け、国内の資源循環システムの自律化・強靱化と国際市場獲得を目指し、「成長志向型の資源自律経済戦略」を 2023 年 3 月に策定しました。同戦略に基づくアクションの一つとして、CE に関する産官学パートナーシップ「サーキュラーパートナーズ(CPs)」が始動しています。日本の高度な技術力を活かしながら、組織の枠を超えた関係主体による有機的な連携が必須という認識のもと、CE のあるべき姿の実現に向け検討すべき重要な観点として、動静脈連携の推進を位置づけています。



(本発表資料のお問い合わせ先)

近畿経済産業局 資源エネルギー環境部

環境・資源循環経済課長 長見

担当者: 福永、安江、西牧

電話: 06-6966-6018

メール: bzl-kin-kankyo@meti.go.jp

